

SDGsってなんだろう? 「海」を切り口に楽しく学ぶ 出張授業開催



SDGs(Sustainable Development Goals)は2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までによりよい世界をつくるための持続可能な開発目標です。小学校でも来年4月以降、他者を尊重し、多様な人々と協力して「持続可能な社会の創り手」になってもらうための学校教育がスタートします。

こども海の学習プログラム普及プロジェクト実行委員会では、「海」を切り口にSDGsを楽しく学ぶ出張授業を全国の小学校で開催しています。第9回と最終回となる第10回の授業の様子を紹介します。

子どもと海のSDGs SDGsって なんだろう



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を良くするための17の目標



子どもたちは、まわりの友だちと相談しながら、ワークシートにどんどん書き込んでいきます。「自然災害を克服した」「病気を克服した」。いろいろな意見が出ました。そこで手島先生が改めて呼びかけます。



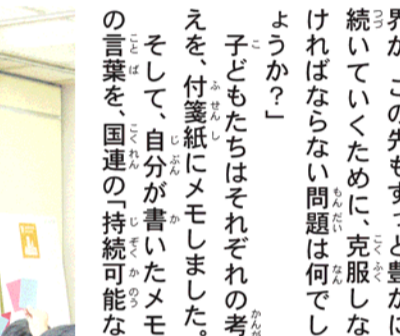
「あれも置き去りにしない。みんなが力を合わせて、一生懸命に勉強してください」最初の話題は「縄文土器について」。「土器を使うことによって、硬い木の実や貝などを煮て食べられるようになった。それが、食料危機の克服につながりました。縄文土器はとも役に立ちました。そして、子どもたちに質問します。「食料の問題のほかにも、私たち人間はどんな問題を克服してきたのでしょうか。考えてみましょう」



「私たちが先相様は様々な問題を克服してきた。各小学校で1時間目の講師をしてくれたのは、日本ESD学会副会長の手島利夫先生です。手島先生は、授業の冒頭、子どもたちにお互いに握手をするように呼びかけました。そして、その狙いについて、こう語りました。



「その克服によって、個人の幸せや成長につながるものは赤いカード。みんなの幸せにつながると思うものについては、青いカードを上げてください」



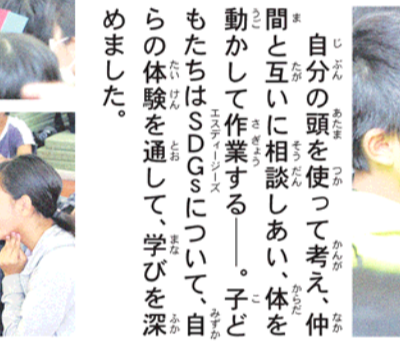
「これから私たちが克服しなければいけない問題はなんだろう」とは、世界をより良いものにするということと、手島先生。「みなさんの住むこの世界が、この先もずっと豊かに続いていくために、克服しなければならぬ問題は何でしょうか?」子どもたちはそれぞれの考えを、付箋紙にメモしました。そして、自分が書いたメモの言葉を、国連の「持続可能な



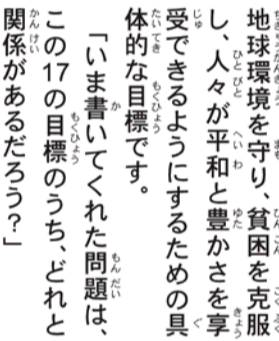
「いま書いてくれた問題は、この17の目標のうち、どれと関係があるだろうか?」教室には「海の豊かさを守ろう」「貧困をなくそう」「気候変動に具体的な対策を」など、SDGsの目標を示す色とりどりのマークが貼られた大型パネルが計17枚、壁や窓際に立てかけてあります。そこに、自分の付箋を貼り付けに行きました。



自分の頭を使って考え、仲間と互いに相談しあい、体を動かして作業する。子どもたちはSDGsについて、自分の体験を通して、学びを深めました。



「日本人は昔から海の恩恵を受けて暮らしてきた。鎌倉市立小坂小学校では、2時間目の講師として、佃煮を製造・販売している遠忠食品株式会社(東京都中央区)の社長、宮島一晃さんが登場しました。宮島さんは、東京湾でとれた海苔やアサリなどを材料にして、無添加の佃煮づくりに取り組んでいます。



「漁民たちが小魚や貝類を煮詰めて保存食にしたのが、佃煮のはじまりです」と宮島さん。「昔は冷たい海苔を乾燥させて、佃煮を作っていました。食品を日持ちさせるため、佃煮を作ると、最近の話題として、台風の影響でたくさんのごみ押し寄せ、千葉県で海苔を育てるための網を張るのに遅れてしまったことも紹介されました。そして、最後に子どもたちに呼びかけました。「日本の1次産品がずっと続いていくように、できれば国産の食材を食べてもらえればと思います」

東京都 目黒区立五本木小学校【4、5年生 139名】

「プラスチック問題、初めは知らない、海の酸性化問題」目黒区立五本木小学校では、2時間目の講師として、海洋研究開発機構地球システム研究センター長の原田尚美さんが登場しました。



原田さんは、海底にたまった泥を解析して過去の地球の環境を調べる研究に取り組む、環境初の南極観測隊副隊長も務めた。南極の様子を紹介したあと、原田さんは「海の酸性化」について解説しました。「みなさん、地球温暖化についてはよく知っていますね。温暖化の原因は?」原田さんの問いかけに、「二酸化炭素!」という声が上がりました。「そう、その二酸化炭素が海に溶け込むと、海水が酸性化



していきます。酸性化の影響を受ける生き物の具体例として原田さんが挙げたのが、炭酸カルシウムの殻をもつプランクトンです。このプランクトンは「有孔虫」の仲間です。サイズを拡大し、3Dプリンターで作った立体模型を2種類、子どもたちに手渡しました。見かけはよく似た二つですが、一つは重く、もう一つは軽いことに子どもたちは気づきました。軽いほうの有孔虫は、酸性化の影響を受けたもので、人間でいえば「骨粗鬆症」という骨がスカスカになる病気に似た状態です。

「酸性化の影響を受ける生き物の具体例として原田さんが挙げたのが、炭酸カルシウムの殻をもつプランクトンです。このプランクトンは「有孔虫」の仲間です。サイズを拡大し、3Dプリンターで作った立体模型を2種類、子どもたちに手渡しました。見かけはよく似た二つですが、一つは重く、もう一つは軽いことに子どもたちは気づきました。軽いほうの有孔虫は、酸性化の影響を受けたもので、人間でいえば「骨粗鬆症」という骨がスカスカになる病気に似た状態です。

「海の中の問題はプラスチックごみだけではない」ということを、今日おうちに帰ったら家族の人たちに教えてあげてください」と子どもたちに呼びかけました。



実は、異足類は「海の妖精」とも呼ばれるクリオネのえさなのです。酸性化で異足類がいなくなることで、クリオネも生きていくのが難しくなるといいます。



海の酸性化でお寿司の材料が減ってしまうかもしれない話を聞いて、ショックだった。ほかの人にもこの問題について伝えたい。【4年生男子】海の酸性化の話聞いて、私たちの暮らしが海の生き物に影響を与えていることが分かり、責任を感じた。【5年生女子】



主催/こども海の学習プログラム普及プロジェクト実行委員会 協力/朝日小学生新聞 日本ESD学会

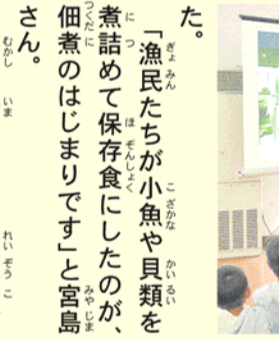
神奈川県 鎌倉市立小坂小学校【6年生 103名】

「日本人は昔から海の恩恵を受けて暮らしてきた。鎌倉市立小坂小学校では、2時間目の講師として、佃煮を製造・販売している遠忠食品株式会社(東京都中央区)の社長、宮島一晃さんが登場しました。宮島さんは、東京湾でとれた海苔やアサリなどを材料にして、無添加の佃煮づくりに取り組んでいます。



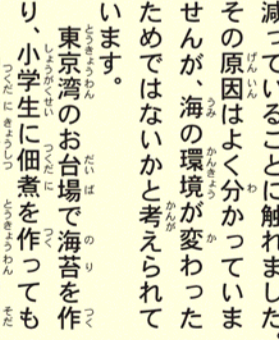
「漁民たちが小魚や貝類を煮詰めて保存食にしたのが、佃煮のはじまりです」と宮島さん。「昔は冷たい海苔を乾燥させて、佃煮を作っていました。食品を日持ちさせるため、佃煮を作ると、最近の話題として、台風の影響でたくさんのごみ押し寄せ、千葉県で海苔を育てるための網を張るのに遅れてしまったことも紹介されました。そして、最後に子どもたちに呼びかけました。「日本の1次産品がずっと続いていくように、できれば国産の食材を食べてもらえればと思います」

「漁民たちが小魚や貝類を煮詰めて保存食にしたのが、佃煮のはじまりです」と宮島さん。「昔は冷たい海苔を乾燥させて、佃煮を作っていました。食品を日持ちさせるため、佃煮を作ると、最近の話題として、台風の影響でたくさんのごみ押し寄せ、千葉県で海苔を育てるための網を張るのに遅れてしまったことも紹介されました。そして、最後に子どもたちに呼びかけました。「日本の1次産品がずっと続いていくように、できれば国産の食材を食べてもらえればと思います」



「海の問題について、いままではプラスチックごみのことしか知らなかった。温暖化や酸性化など、いろいろな問題があることを知った。【6年生男子】国産の海苔にこだわって作っている佃煮があることを知った。国産のものをずっと食べ続けられるように、海の環境を良くしていきたい。【6年生女子】

「海の問題について、いままではプラスチックごみのことしか知らなかった。温暖化や酸性化など、いろいろな問題があることを知った。【6年生男子】国産の海苔にこだわって作っている佃煮があることを知った。国産のものをずっと食べ続けられるように、海の環境を良くしていきたい。【6年生女子】



「海の問題について、いままではプラスチックごみのことしか知らなかった。温暖化や酸性化など、いろいろな問題があることを知った。【6年生男子】国産の海苔にこだわって作っている佃煮があることを知った。国産のものをずっと食べ続けられるように、海の環境を良くしていきたい。【6年生女子】



このプログラムは、海と日本PROJECTの一環で実施しています。